

## 「オンライン講座」の面白さ

酒井 董美<sup>ただよし</sup>

四月からZOOMを使って「山陰の民話とわらべ歌ミニオンライン講座」を隔週木曜日午前九時半から一回一時間の予定で始めた。午前中は都合の悪い方のために、同じ日の夜八時から行うことにしている。内容であるが、山陰に伝わる民話とわらべ歌を一つずつとりあげる。筆者がこれまで伝承者から録音しておいた資料を使い、時としてはDVDに保存しておいた映像を再生して利用したり、工夫を凝らしている。

ZOOMを自由に活用するには、毎月経費が約二千元必要なので、一回聴講するのに百円徴収することにして、十回まとめて千円を銀行から筆者の口座に振り込む形を取っている。

最初はメール交換している知人に記しておいたら、伝え聞いた見知らぬ方々から希望者が出て、今のところ四十数名になっている。こちらのメール招待状に応じ、クリックして参加いただく。東京、千葉、神奈川、静岡、埼玉、岐阜、福井、奈良、島根、鳥取、山口、福岡の方々である。

なにしろお互い生身の人間なので、都合が悪くて欠席しなければならぬこともあるが、その場合、奈良の小西雅子さんのご厚意で録画くださったのをメールで送ることにしている。

こうして顔を見ながら講義をし、質疑応答にも手を挙げて貰えば、いたって自由に発言できるので気楽だし、こちらから逆に質問しても、地方別に特色のある答えが返ってくるので、お互い重宝しながら楽しんでいるといったところであろうか。時には方言の語りについて、どう扱うべきかと思見が出たり、語る内容の扱いとか、語り手の創作を許すべきかなど、本質論ともいえる問題になったりしてなかなか面白い。

ここにあげた写真は、六月二十三日の昼の部のものである。このように常に十〜十三名くらいの参加者があり、メンバーは入れかわるが、熱心な方は昼の部と夜の部共に出席するという熱心さである。

八月十八日には第一回講座の十回目、「似せ本尊」（鳥取県大山町）、「トンボとまれ」（同・日野町）で終了。第二回講座は、九月八日を第一回として「菖蒲が迫の婆」（島根県浜田市）と「カラス勘三郎」（鳥取県北栄町）から再スタートすることになっている。

どのような展開になるか今から楽しみにしている筆者なのである。

また会費を徴収しない形でも、原則として毎週月曜日の午後八時から一時間「雑談会」と称して全国の有志と話し合っているが、これもまた楽しいものである。